kaminorippo.org

付録8c：聖書の祭り — なぜ今日そのいずれも守ることができないのか

このページは、エルサレムに神殿が存在していた時にのみ守ることが可能であった神の律法を探究するシリーズの一部です。

- 付録8a：神殿を必要とする神の律法
- 付録8b：いけにえ — なぜ今日それを守ることができないのか
- 付録8c：聖書の祭り — なぜ今日そのいずれも守ることができないのか（現在のページ）。
- 付録8d：清めの律法 — なぜ神殿なしでは守ることができないのか
- 付録8e：十分の一と初物 — なぜ今日それらを守ることができないのか
- 付録8f：聖餐 — イエスの最後の晩餐は過越であった
- 付録8g：ナジル人と誓願の律法 — なぜ今日それらを守ることができないのか
- 付録8h：神殿に関わる部分的・象徴的な服従
- 付録8i：十字架と神殿

聖なる祭り — 律法が実際に命じていたこと

年ごとの祭りは、単なる祝賀行事や文化的集まりではありませんでした。それらは、神がご自身で選ばれた神殿と直接結びつけられた、供え物、いけにえ、初物、十分の一、そして清めの規定を中心とする、聖なる集会でした（申命記 12:5-6；申命記 12:11；申命記 16:2；申命記 16:5-6）。主要な祭り——過越、種なしパンの祭り、七週の祭り、ラッパの祭り、贖罪の日、仮庵の祭り——はいずれも、礼拝者が神が選ばれた場所で主の前に出ることを要求しており、人々が好む場所で行うことは許されていませんでした（申命記 16:16-17）。

- 過越には、聖所で献げられる子羊が必要でした（申命記 16:5-6）。
- 種なしパンの祭りには、火による日ごとの供え物が必要でした（民数記 28:17-19）。
- 七週の祭りには、初物の供え物が必要でした（申命記 26:1-2；申命記 26:9-10）。
- ラッパの祭りには、「火による」いけにえが必要でした（民数記 29:1-6）。
- 贖罪の日には、至聖所における祭司の儀式が必要でした（レビ記 16:2-34）。

- 仮庵の祭りには、日ごとのいけにえが必要でした（民数記 29:12-38）。
- 第八日の集会には、同じ祭りの周期の一部として、追加の供え物が必要でした（民数記 29:35-38）。

神はこれらの祭りを非常に詳細に定め、繰り返し、それらがご自身の定めの時であり、命じられたとおり正確に守られるべきものであることを強調されました（レビ記 23:1-2；レビ記 23:37-38）。場所、いけにえ、祭司、供え物——そのすべてが命令の一部であり、個人的解釈や地方の慣習、象徴的な適用に委ねられた部分は一つもありませんでした。

過去にイスラエルがどのようにこれらの戒めに従っていたか

神殿が存在していた時、イスラエルは神が命じられたとおりに祭りを守っていました。人々は定められた時にエルサレムへ上り（申命記 16:16-17；ルカの福音書 2:41-42）、祭司のもとにいけにえを携え、祭壇の上で献げてもらいました。神が聖別された場所で、主の前に喜びました（申命記 16:11；ネヘミヤ記 8:14-18）。最も古い国民的祭りである過越でさえ、中央聖所が定められた後は、家々で守ることは許されませんでした。それは、主がご自身の名を置かれた場所でのみ守ることができたのです（申命記 16:5-6）。

聖書はまた、祭りが正しく守られなかった場合に何が起こったかも示しています。ヤロブアムが別の祭日と場所を設けたとき、神はその制度全体を罪として退けられました（列王記第一 12:31-33）。神殿が軽んじられたり、汚れが放置されたりしたとき、祭りそのものが受け入れられないものとなりました（歴代誌第二 30:18-20；イザヤ書 1:11-15）。一貫した結論はこれです。服従には神殿が必要であり、神殿なしに服従は存在しません。

なぜこれらの祭りの戒めは今日守ることができないのか

神殿が破壊された後、祭りを守るために命じられていた構造は消え去りました。祭りそのものが消えたのではありません。律法は変わらないからです。失われたのは、必須とされていた要素です。

- 神殿がない
- 祭壇がない
- レビ系祭司職がない
- 犠牲の体系がない
- 初物を献げるべき指定の場所がない
- 過越の子羊を献げることができない
- 贖罪の日に必要な至聖所がない
- 仮庵の祭りにおける日ごとのいけにえがない

神がこれらの要素を祭りの服従に不可欠なものとして要求された以上、それらが置き換えられたり、適応されたり、象徴化されたりすることはなく、真の服従は今や不可能です。モーセが警告したとおり、過越は「あなたの神、主が与えるどの町でも」献げてよいものではなく、「主が選ばれる場所」でのみ守られるべきものでした（申命記 16:5-6）。その場所は、もはや存在しません。

律法は今も存在します。祭りも今も存在します。しかし、服従のための手段は失われました。それは、神ご自身によって取り除かれたのです（哀歌 2:6-7）。

象徴的、または作り出された祭り遵守という誤り

今日、多くの人々は象徴的な再現や会衆中心の集まり、あるいは聖書の命令を簡略化した形によって「祭りを尊んでいる」と主張します。

- 子羊なしの過越のセデルを行う
- いけにえのない仮庵の祭りを開催する
- 祭司に初物を携えて行かないまま「シャブオット」を祝う
- トーラーに命じられていない「新月礼拝」を作り出す
- 代用品として「練習の祭り」や「預言的祭り」を発明する

これらの実践は、聖書のどこにも登場しません。
モーセ、ダビデ、エズラ、イエス、使徒たちの誰一人として行っていません。
神が与えられた命令のいずれにも一致しません。

神は象徴的ないけにえを受け入れられません（レビ記 10:1-3）。
神は「どこででも」行われる礼拝を受け入れられません（申命記 12:13-14）。
神は人間の想像によって作られた儀式を受け入れられません（申命記 4:2）。

いけにえのない祭りは、聖書的な祭りではありません。
神殿で献げられた子羊のない過越は、過越ではありません。
祭司の奉仕のない「贖罪の日」は、服従ではありません。

神殿なしにこれらの律法を模倣することは、忠実さではありません——思い上がりです。

祭りは、神ご自身が回復される神殿を待っている

トーラーは、これらの祭りを「代々にわたる永遠の掟」と呼んでいます（レビ記 23:14；レビ記 23:21；レビ記 23:31；レビ記 23:41）。律法、預言者、福音書のいずれにも、この定義を取り消すものはありません。イエスご自身も、天と地が過ぎ去るまでは律法の最も小さな文字一つも失われないと確認されました（マタイの福音書 5:17-18）。天と地は今も存在しています。したがって、祭りも存在しています。

しかし、神が次のものを取り除かれたため、今日それらを守ることはできません。

- 場所
- 祭壇

- 祭司職
- 祭りを定義していた犠牲の体系

それゆえ、神が取り除かれたものを神ご自身が回復されるまで、私たちは象徴的な代替物を発明することによってではなく、これらの戒めの完全さを認めることによって、それらを尊びます。忠実さとは、神の設計を変更することではなく、それを尊重することなのです。